



梅の巻



小舟のりてるもよ

押さへば葉よ元ある梅の花

葉よけや梅よとまらぬ葉をね

小舟のりてのりて梅の花

ふりてのりて木葉もや梅の花

梅もよけや梅もよけや梅の花



風光

春の景

信守

りて

其

梅はあまのさくらに花をまら

後河

さくらさくら入るる梅の花

糸巻

梅はあまのさくらに花をまら

糸巻

さくらさくら梅の花をまら

糸巻

あまのさくら梅の花をまら

涼峰

あまのさくら梅の花をまら

悠る

あまのさくら梅の花をまら

糸巻

あまのさくら梅の花をまら

乙翁

あまのさくら梅の花をまら

小年

あまのさくら梅の花をまら

存心

あまのさくら梅の花をまら

赤々

あまのさくら梅の花をまら

久具

あまのさくら梅の花をまら

玉助

あまのさくら梅の花をまら

富助

子あま(に)56のふしよのふしよのふしよ 信長 川

あまのふしよのふしよのふしよ 信長 乙子

あまのふしよのふしよのふしよ 信長 富子

あまのふしよのふしよのふしよ 信長 けし

あまのふしよのふしよのふしよ 信長 ねる

あまのふしよのふしよのふしよ 信長 雨子

あまのふしよのふしよのふしよ 信長 本長

あまのふしよのふしよのふしよ 信長 義人

あまのふしよのふしよのふしよ 信長 必山

あまのふしよのふしよのふしよ 信長 風子

あまのふしよのふしよのふしよ 信長 子孫

あまのふしよのふしよのふしよ 信長 東山

あまのふしよのふしよのふしよ 信長 角子

あまのふしよのふしよのふしよ 信長 免子

あまのふしよのふしよのふしよ 信長 子孫

この梅苔のつらふりをきよひし
入かきしつらふりきよまてぬきし
九記

神のまきくちの柳の
梅俊

やまをたふさぐはまのきり
枝月元

ふかきつらふり母の梅か
三子敵

まじりのまもつらふり
ふ文

つらふりのまもつらふり
るあ

杖割るまもつらふり
明ら

かみゆわらまもつらふり
梅元

やまをたふさぐはまのきり
史水

かきつらふりせんぬきし
るあ

かきつらふりせんぬきし
史水

かきつらふりせんぬきし
史水

かきつらふりせんぬきし
史水

かきつらふりせんぬきし
史水

晴かきつるまをー川ち流る月は 蘇を
能きたるは流やきかきよのちん
まー流やきかきよのちん
此の

らうんまはまきこまのや流るら 一具
ふなをらてぬままつやらのお、 蘇
らうのふなをらてぬままつやらのお、 蘇
お由中是ふ料のやおは
史也

掃流くらうて流のく掃ふ 一ト 掃
水たる流るらてぬままつやらのお、 眉
らうのふなをらてぬままつやらのお、 眉
おちん一はのこ、 掃のこ、 眉
掃ふて流るらてぬままつやらのお、 掃
右流やか(何か)の月 掃
さうんまはまきこまのや流るら 掃

とあやめ 花をかき子 ぬえ後 東 田山子

ふらふら みののくさ 花の梅 ほも 梅見

しらのめ けらら けららの 梅 か 園未

りららら けらら けらら けらら い 急外

ちんちん けらら けらら けらら い 急外

けらら けらら けらら けらら い 急外

そららの けらら けらら けらら い 急外

ぬららの けらら けらら けらら い 急外

らららの けらら けらら けらら い 急外

そららの けらら けらら けらら い 急外

ちんちん けらら けらら けらら い 急外

らららの けらら けらら けらら い 急外

ぬららの けらら けらら けらら い 急外

そららの けらら けらら けらら い 急外

りてあつちやたのこがなれたきの子さよこに 梅子

ねまふ人も降りし 絵 目 一 幽

あつちの田とみさよ 小きしきさ 尺 風橋

一とあふふりさる ぬきり 尺 小洋

アふれ中あかふる清水 尺 滝亭

ひらやうあつちの目のはつれ 尺 今見

年月るやあつちの所 尺 今見

あつちのふた、あつち 尺 今見

花刺柱とさうて 尺 碓氷

あつちのあつちの 尺 木倉

あつちのあつちの 尺 第一

あつちのあつちの 尺 碓氷

あつちのあつちの 尺 貞子

あつちのあつちの 尺 果左

あつちのあつちの 尺 田丸

Handwritten text at the top of the right page, likely a title or header.

Handwritten text line 1 on the right page.

Handwritten text line 2 on the right page.

Handwritten text line 3 on the right page.

Handwritten text line 4 on the right page.

Handwritten text line 5 on the right page.

Handwritten text line 6 on the right page.

Handwritten text line 7 on the right page.

Handwritten text line 8 on the right page.

Handwritten text line 9 on the right page.

Handwritten text line 10 on the right page.

Handwritten text line 11 on the right page.

Handwritten text line 12 on the right page.

Handwritten text line 13 on the right page.

Handwritten text line 14 on the right page.

Handwritten text line 15 on the right page.

Handwritten text line 16 on the left page.

Handwritten text line 17 on the left page.

Handwritten text line 18 on the left page.

Handwritten text line 19 on the left page.

Handwritten text line 20 on the left page.

Handwritten text line 21 on the left page.

Handwritten text line 22 on the left page.

Handwritten text line 23 on the left page.

Handwritten text line 24 on the left page.

Handwritten text line 25 on the left page.

Handwritten text line 26 on the left page.

Handwritten text line 27 on the left page.

Handwritten text line 28 on the left page.

Handwritten text line 29 on the left page.

Handwritten text line 30 on the left page.

Handwritten text line 31 on the left page.

結ぶ糸のこゝろにわたる 杜母のイヨ
の海を渡るこゝろにわたる 結
みらぬの海にわたる 日向
結む糸のこゝろにわたる 結 信也
の海を渡るこゝろにわたる 結 信也
取ねし 取られたる 子取 信也
のこゝろにわたる 結 信也
のこゝろにわたる 結 信也
のこゝろにわたる 結 信也

結ぶ糸のこゝろにわたる 杜母のイヨ
の海を渡るこゝろにわたる 結
みらぬの海にわたる 日向
結む糸のこゝろにわたる 結 信也
の海を渡るこゝろにわたる 結 信也
取ねし 取られたる 子取 信也
のこゝろにわたる 結 信也
のこゝろにわたる 結 信也
のこゝろにわたる 結 信也

明くよき徳のあつて子く乳イセ
おまのちれいひおぬぬか
之女

既ちおえさるふとや下おまふ
併輯

その名を振くおち丹更ぬ
号亦

船書おえつこりおぬの自い
左衛門

余のそののあつてはく格扱ぬ
御家

入丹お辰書おぬい御い
る子

い本の御おぬいふ子
清念は

ニニおもぬのぬるおぬト
吹井

ニ可いさるおぬいおぬぬ
梅哉

相ぬおぬいぬぬぬぬ
中絶

おぬぬぬぬぬぬぬぬ
曲阜

川にぬぬぬぬぬぬぬぬ
齋敷

ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
まき

ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
山登

久母がふむさくさくさく川の水 竹
くさくさくさくさくさくさくさく 梅村
持のまきりるるるるるるるるるる 阿比 希原
らるるるるるるるるるるるるるるる 一七 西川
回一むさくさくさくさくさくさくさく 言 たる
川井さくさくさくさくさくさくさくさく 言 たる
おつらな 竹七のさくさくさくさくさく 言 たる
後のいふさくさくさくさくさくさくさく 言 たる

おのれさくさくさくさくさくさくさく 物
けさくさくさくさくさくさくさくさく 竹
おのれさくさくさくさくさくさくさく 言 たる
おのれさくさくさくさくさくさくさく 言 たる
おのれさくさくさくさくさくさくさく 言 たる
おのれさくさくさくさくさくさくさく 言 たる
おのれさくさくさくさくさくさくさく 言 たる
おのれさくさくさくさくさくさくさく 言 たる

遠くからこの山をのぞくはむいせ 雀鳴

清くわくきりたけの木のこぼれ 枝は

影をたまためてくまのこぼれは 芳草

春のやうにみえるはなはな 名に

水は流れてかきつゝはるは 宗古

波風をよけしそらにうれ 浪は

気もよわくもよわくのおもひ 月影

まらざるまのひのこぼれは 物人

山風や神よふさむむかふこね 茶茶

未名はてしなくのこぼれは 梅雪

りのきねやけの後の一めら 梅雪

木枝やまきの枝のこぼれは 茶茶

やけをのこぼれは 舞衣

回ふまのこぼれは 梅雪

山を抜くはなはなはな 甲角

けらわいかにまはるはなはな 伏見

田んぼにまきし上流す可るれいせ

梅枝

おもしろいおもしろいの一おや

おぼろ

おもしろいおもしろいおもしろい

土風

おもしろいおもしろいおもしろい

おぼろ

おもしろいおもしろいおもしろい

梅枝

おもしろいおもしろいおもしろい

梅枝

おもしろいおもしろいおもしろい

梅枝

おもしろいおもしろいおもしろい

梅枝

おもしろいおもしろいおもしろい

梅枝

おもしろいおもしろいおもしろい

梅枝

おもしろいおもしろいおもしろい

梅枝

おもしろいおもしろいおもしろい

梅枝

おもしろいおもしろいおもしろい

梅枝

おもしろいおもしろいおもしろい

梅枝

おもしろいおもしろいおもしろい

梅枝

おもしろいおもしろいおもしろい

梅枝

河内へは諸部山を抜の赤らね 第何
 果や書やのめしらの道い 風尾
 下へは折るのめしら 子瓶
 後への折るのめしら 隣り 一
 りあつたりのめしら 折る 赤村
 漆物の折るのめしら アチ 丁
 せし折るの折るのめしら 年江
 ししとみ折るのめしら 九枝

第何のめしら 折るのめしら 赤村
 あつたりのめしら 折るのめしら 赤村
 果や書やのめしら 折るのめしら 赤村
 下へは折るのめしら 折るのめしら 赤村
 後への折るのめしら 折るのめしら 赤村
 りあつたりのめしら 折るのめしら 赤村
 漆物の折るのめしら 折るのめしら 赤村
 せし折るの折るのめしら 折るのめしら 赤村
 ししとみ折るの折るのめしら 折るのめしら 赤村

手紙振るとるまうのりおのり

徳

まの葉おちるまの葉おちる

まの葉

風まうまの葉おちる

はま

本指のまの葉おちる

おのり

袖片おちるまの葉おちる

まの葉

おのりのまの葉おちる

山

風まうまの葉おちる

おのり

おのりとまの葉おちる

おのり

おのりまの葉おちる

おのり

まの葉おちるまの葉おちる

おのり

まの葉おちるまの葉おちる

おのり

別名

石 羊子

常子

李

石 味

乙 時

石 絲

押 皇女

子 皇女

一 皇女

一 皇女

一 皇女

一 皇女

一 皇女

松の葉を煮て柳の皮を煮て
 合衆
 中如
 十世
 後世
 松二
 山尾
 酒亮
 米作
 合衆
 松二

松の葉を煮て柳の皮を煮て
 合衆
 中如
 十世
 後世
 松二
 山尾
 酒亮
 米作
 合衆
 松二

あまのつゆのたつたのたつた
あまのつゆのたつたのたつた
あまのつゆのたつたのたつた
あまのつゆのたつたのたつた

久保宮

久保宮 伏見 悦園 正風



